

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分
 【発行日】平成 19 年 3 月 8 日 (2007.3.8)

【公開番号】特開 2005-204181(P2005-204181A)
 【公開日】平成 17 年 7 月 28 日 (2005.7.28)
 【年通号数】公開・登録公報 2005-029
 【出願番号】特願 2004-9802(P2004-9802)
 【国際特許分類】

H O 4 N 1/409 (2006.01)

G O 6 T 5/00 (2006.01)

【F I】

H O 4 N 1/40 1 0 1 C

G O 6 T 5/00 3 0 0

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 1 月 24 日 (2007.1.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の名称】画像処理方法、画像処理装置、および画像処理プログラム並びに記録媒体

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 3】

しかし、実際はノイズよりも小さな文字（小数点、文字の一部など）があり、逆に小さな文字よりも大きなノイズは存在する。このような場合は、前述の従来技術では、誤って小さな文字をノイズとして除去したり、小さな文字よりも大きなノイズをノイズではないと判断することもある。そのため、本来除去してはいけない情報（文字、写真、図など）に欠落が起きてしまうことがある。

本発明は、上述した実情を考慮してなされたものであって、ノイズの判定精度は 1 0 0 % ではないことを前提に、誤った判定に基づいたノイズ除去後の画像に対する修正作業を効率よく行うことが可能な画像処理方法、画像処理装置、および画像処理プログラム並びに記録媒体を提供することを目的とする。

なお、本発明での修正作業とは、ノイズ除去によって、必要な情報（小数点、文字、文字の一部、点線など）が誤ってノイズと判断されて除去されたものを復活（ノイズではない状態に戻すこと）させる、あるいはノイズ判定により、本来ノイズなのにノイズではない情報（文字、点線など）と誤判定されたものを解除（ノイズの状態に変更）する、作業のことである。